

# 第9期（2020年度）事業報告

2020年10月1日～2021年9月30日

## 事業報告書

### 1. 事業概要

設立したのが2012年（平成24年）9月26日、本年9期の事業を終えた。財団設立の背景には「失われた20年」といわれる1990年代から低迷してきた日本経済を成長軌道に乗せられないかがあった。技術経営学の研究成果を使い経営人財を育成することで、日本経済の活性化の一助にならないかに財団設立の狙いがあった。当財団は「豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目的とする」と定款に掲げ活動してきた。

公益財団として評価されるべく9年間取り組んできた。日本の国家は、真の原因を対策することを怠って30年、今や「失われた30年」になっている。財団の経営人財育成活動の意義と役割の重要性が増している。

第9期の財団活動は、コロナ禍においても感染の対策に充分の配慮をして、人財育成の事業に総力挙げて取り組んだ。取り組んだ主要な人財育成事業は、次の3つである。

- (1) 西河技術経営塾（実践経営スクール8期：修了生4名）
- (2) 西河技術経営塾入門講座（沼田塾第2期：修了生6名）
- (3) 研修事業（敬愛大学への寄付講座4期：受講生72名）

沼田での塾活動は、修了生のサポートや沼田市の後援も得て地元で根差した活動へと進展している。修了生に沼田青年会議所の幹部も多く、共同事業の可能性を模索中である。

敬愛大学との寄付講座4期は、経済学部長からの依頼で経営学部の「経営シミュレーション」に国際学部の「入門経営学」を相乗りする形で取り組んだ。技術経営が経営実務経験の無い文系の学部の学生に理解できるのか不安を持って取り組んだが、「技術経営学」＝「入門経営学」という新たな知見を得ることができた。技術がビジネスの「具現力」である限り、「経営学」を理解する上での糸口に「技術経営学」がなりうるのである。

今期（第9期）の事業計画には、「西河技術経営塾実践経営スクールの第8期までを一区切りとし、第9期の募集までに講座構成および講師の見直しを行う」とある。「受講生の大半は中小企業の経営者、大企業にのみ通用する経営学を論じてないか」「デジタル時代に生き残れる経営学を教示できているか」などの視点で検討し、「西河技術経営塾代々木校と沼田校とし、同一講座構成とする」「中小企業の経営者を対象とした、講義内容とする」などと見直しをした。

コロナ禍とデジタル化が進む変革の年となった9期を終えた。2倍、3倍と売上を増やし、従業員を雇用し税金の払える企業づくりができる経営者を育成できている。公益財団としての評価が得られる実績が積みあげられている。

## 2. 西河技術経営塾

### 2. 1 西河技術経営塾・実践経営スクールの概要

西河技術経営塾・実践経営スクールでは、変革をつくるマーケティングを学び、豊かな社会づくりに取り組むことができる技術経営人財を育成する。

講座は午後6時に開始され、座学90分、演習90分の180分で構成され、休憩10分を挟んで、午後9時10分に終了する。原則週1回、連続して32回開催する。

技術経営塾での学びを6項目に整理した。

- (1) 日本型技術経営研究の成果を学ぶ
- (2) お金は企業の血液であることを学ぶ
- (3) 売上を10倍にする西河技術経営学を学ぶ
- (4) 実践的思考、変革的思考を塾生参加型で育成する
- (5) 誠実な経営人財を育成する
- (6) 現職の経営者が学び、学んだことをすぐ経営に生かす

#### (1) 日本型技術経営研究の成果を学ぶ

米国型経営の中核に株主がいるとすると、日本型経営の中核には従業員がいる。日本の会社は、終身雇用で社員を大事にする。景気が悪いと言っても、正規社員は簡単に首を切らない。日本の学生は学校を卒業すると就職ではなく、親とも相談し、会社選びに取り組み、就社をする。

日本の経営者の指導力は、ボトムアップのやる気を引き出すことにある。技術重視の経営は、現場からの改善力（現場力）を引き出すことにあり、技術の分かる経営者によって実現してきた。

#### (2) お金は企業の血液であることを学ぶ

会計情報が、企業活動を把握する上で重要なパラメータであることを教える。

大学院での講座は、1つの特定の領域における専門家の先生が講義する。なかなか経営全般を理解し、横串を刺して教えることは実務経験がないと難しい。経営では、金銭管理（会計情報）で組織の横串を刺す。

#### (3) 売上を10倍にする西河技術経営学を学ぶ

塾生に売上を10倍にする経営戦略を考える。売上を10倍にしようとする、経営学を学ばないとできない。「頑張ろう」という精神論だけで実現することはできない。3年とか5年とかの中長期計画を立案し、全社で組織的に人財の育成をするとともに、モノ、カネに関する戦略を立案し、計画的に取り組まなければ実現できない。

#### (4) 実践的思考、変革的思考を塾生参加型で育成する

経営の知識を座学で学び、演習で経営に携わっていることを絡めた宿題に取り組み、宿題を発表することで塾生参加型の実務に役立つ経営塾を実現している。

塾生は経営幹部として仕事をしていることが前提となる。

小人数で取り組む当塾の演習は、経営者の実践力の向上につながる。演習は学びの検証の場でもある。講師にとっても塾生の理解度を把握できる。

## **（５）誠実な技術経営人財を育成する**

経営責任者として社会に役に立つには、誠実な心を持つ人間でなければならない。財団の「アーネスト」は、「誠実」を意味する。「誠実」でかつ「やる気」と「気力」を持っている人物かを評価し、入塾を許可している。更には、演習などを通して、繰り返し、嘘をつかない、誠実な経営を心掛けることを指導してきた、

## **２．２ 西河技術経営塾・実践経営スクール（８期）の開塾状況**

### **（１）開催日程**

本実践経営スクールは、32回開催する。原則、毎週水曜日に開講し、1日の構成は前半の18時～19時30分が座学、後半の19時40分～21時10分が演習に取組む。演習では、課題研究の発表、ケース研究、ディベートなどを行い、創生力やコミュニケーション力を鍛錬している。

第8期生は2020年10月07日に5名の塾生を迎え開塾をした。2021年7月28日付で小笠原健人、為野大地、山下史恵、村脇隆太郎の4名に対し修了証と優良賞を授与した。

東京都に緊急事態措置宣言やまん延防止等重点措置が発令された。コロナウイルスの感染防止のため、令和3年02月からはZoomを使った遠隔講義も行った。Zoomでの講義になれるために、講義と演習を分けて実施するという工夫も行った。

### **（２）第8期の開講実績**

（第1講座）2019年10月7日、開講式：開講にあたって（小平専務理事）

演習：自己紹介と受講目標、意見交換後、再度の目標設定と報告。

（第2講座）10月14日、まず自社のビジネスモデルを考える（小平）

演習：自社のビジネスモデルを報告する。

（第3講座）10月21日、事業計画を作成する（大橋克巳研究員）

演習：自社のビジネスモデルを報告する。

（第4講座）10月28日、会社の状態を会計数値で管理する（小平）

演習：事業計画を記述する。

（第5講座）11月04日、新規の市場を創生する（山中研究員）

演習：自社の事業や経営を会計数値で管理（原価計算、損益）

（第6講座）11月11日、戦略の基礎と技術経営戦略を学ぶ（小平）

演習：西河塾長の講義

（第7講座）11月18日、企業組織と組織的活動を学ぶ（前田光幸研究員）

演習：自社のSWOT分析（自社（もしくは競合社）の財務諸表を報告する。

（第8講義）11月25日、エンジニアリング・ブランドと技術経営を学ぶ（小平）

演習：自社の事業計画（事業計画書、中期事業計画（3か年））と戦略と戦術を語る

- (第9講座) 12月02日、顧客とのコミュニケーションを考える (小平)  
演習: 自社の戦略と戦術と現状の課題を報告する
- (第10講座) 12月16日、ビジネスを会計数値で管理する (前田)  
演習: 自社をPRするパ広告を作ろう
- (第11講座) 12月23日、モノづくりを理解し、生産活動を学ぶ (杉本晴重理事)  
演習: ブランドコンセプトとブランド構築戦略を報告する
- (補習01: Zoom) 2021年2月10日、演習: 中長期事業計画 (数値目標のレビュー) & 現在までの疑問点を解消しよう!
- (第12講座: Zoom) 2月17日、モノづくりを会計数値で管理する (杉本)  
(補習02: Zoom) 2月24日、演習: 貴社の無駄取りを検討する
- (第13講座: Zoom) 3月03日、中長期計画を作成する (小平)  
(補習03: Zoom) 3月10日、演習: 原価管理、経費管理の現状と課題と対策
- (第14講座: Zoom) 3月17日、サービスの8Pとホスピタリティ・センスウェア (山中)  
演習: 生産技術、エンジニアリング、テクノロジー、科学・・・開発戦略
- (第15講座) 3月24日、商品開発の進め方 (杉本)  
演習: 自社の4P+2Cまたは8Pの報告とマーケティング戦略
- (第16講座) 3月31日、企業文化とアイデンティティを考える (前田)  
演習: 事業別 (製品別) 収支計算書 (原価計算書) を作成する
- (第17講座) 4月07日、人財育成と設備投資 (小平)  
演習: 技術開発、商品開発、保守サービスなどの開発マネジメント
- (第18講座) 4月14日、ICTを活用した新規ビジネス (山中)  
演習: 事業拡大に伴う銀行向け中長期経営計画書2 (事業収支) の作成
- (第19講座) 4月21日、海外市場と貿易取引 (浅野昌宏理事)  
演習: ブランド構築と広告のデザイン
- (第20講座: Zoom) 4月28日、海外におけるモノづくり (杉本)  
演習: 企業アイデンティティとブランドの提案
- (第21講座: Zoom) 5月12日、サービス・イノベーションで新規ビジネス (山中)  
演習: 貴社のICT戦略 (即時実行、短期計画、中長期計画)
- (第22講座: Zoom) 5月19日、イノベーションを作る経営戦略 (小平)  
演習: ロボットの研究 (現状分析、自社の利用、未来志向)
- (第23講座: Zoom) 5月26日、プロジェクトマネジメント (浅野)  
演習: 演習: マーケット観察 (競争の場面を見て、調査し、対策を立案する)
- (第24講座: Zoom) 6月02日、M&A、知的財産 (浅野)  
演習: サービス・イノベーション戦略 (中期) を企画する
- (第25講座: Zoom) 6月09日、課題研究、報告書と論文の書き方 (小平)  
演習: 世界をリードした日本のイノベーション事例を6つ挙げ特徴と理由を報告。
- (第26講座: Zoom) 6月16日、マネジメントとリーダーシップ (小平)  
演習: 研究報告書のテーマの設定
- (第27講座) 6月23日、会社を取り巻く法令と規則 (小平)

- 演習：市場の看板や広告を研究し、自社の看板を企画する。  
(第 28 講座) 6 月 30 日、企業のコミュニケーション(前田)  
演習：人財育成上の問題と原因  
(第 29 講座) 7 月 07 日、リスクマネジメントと失敗学 (浅野)  
演習:研究報告書のテーマと概要レビュー (1)  
(第 30 講座) 7 月 14 日、研究報告書のテーマと概要レビュー (2)  
演習：研究報告書のテーマと概要レビュー (3)  
(第 31 講座) 7 月 21 日、課題発表会 (1) (2)、<審査>  
(第 32 講座) 7 月 28 日、修了

### (3) 受講料 (税込)

受講料は、1 律 15 万円+税とした。

### (4) 第 8 期生の開講 (2020 年 10 月 7 日開催、2021 年 7 月 21 日修了)

第 8 期生は、為野大地、小笠原健人、山下史恵、村脇 隆太郎の 4 名が合格した。2020 年 10 月 07 日に開塾し、2021 年 7 月 21 日に修了した。修了式は、コロナ禍で緊急事態宣言が発出されているので、後日、日程を調整することとした。

## 2. 3 西河技術経営塾 9 期生、講座構成および講師の見直し

今期 (9 期) の事業計画には、「西河技術経営塾実践経営スクールの第 8 期までを一区切りとし、第 9 期の募集までに講座構成および講師の見直しを行う」とある。西河技術経営塾 8 期および西河技術経営塾入門講座 (沼田) 2 期の実績を踏まえ見直した。

### 見直しにあたっての視点

- (1) 科目名と構成は適正かを見直す。
- (2) 受講生にとって西河技術経営塾 (代々木) も西河技術経営塾入門講座 (沼田) も受講動機で差がない。
- (3) 受講生の大半が中小企業の経営者、大企業に通用する経営学を論じてないか。
- (4) デジタル時代に生き残れる経営学を教示できているか。
- (5) 財団設立 10 年、経営者育成の柱の「技術経営塾」をメジャーな経営塾にする。

### 見直し方針

- (1) 「技術経営学」を意識した科目名とする。
- (2) 技術経営学が入門経営学であるとの問題意識に立って講座を整理する。
- (3) 西河技術経営塾代々木校と沼田校とし、同一講座構成とする。
- (4) 中小企業の経営者を対象とした、講義内容とする。

### 代表的な新規講座 (沼田塾 2 期で実施済み)

- (1) 技術経営とは何か
- (2) 企業財務入門
- (3) モノづくりとコトづくり
- (4) コストハーフ戦略

- (5) グローバル経営戦略
- (6) 中小企業のブランド構築戦略
- (7) 中小企業のDX戦略
- (8) 商品開発プロジェクトマネジメント

#### **9期の講師陣**

- (1) 新規講師 土山真由美、小坂哲平
- (2) 講師 西河洋一、小平和一朗、山中隆敏、浅野昌宏

### 3. 研修事業

#### 3. 1 西河技術経営塾入門講座（沼田塾2期）の運営

本講座は芙蓉書房から出版された『西河「技術経営学」入門』を教材に使った講座である。『西河技術経営塾』の入門講座として位置付けられ、平易に「技術経営学」を学習し、実務に生かすことが出来る演習に取組んだ。教材に沿って復習をベースに講座を進めることで、効率的に技術経営学を学ぶことができないかの試行に狙いがあった。

本講座は、2021年3月27日に沼田市にある小坂建設の集会室を借りて開講した。

技術経営を概括するとエンジニアリング（技術）が経営の中心にあり、その周りに「企業観」「ビジネスモデル」「市場創出」「中長期計画」の4つの経営課題が配置されている。それぞれの経営課題は技術と連携しながら活動をしている。本講座は、『西河「技術経営学」入門』の図書に準拠し、4部構成18章で組み立てた。

##### （1）西河技術経営塾入門講座（沼田塾2期）の概要

###### 技術経営ノウハウを個別指導

未来に向かって経営計画を立てて、社員と共に取り組むのが経営である。企業理念で経営目的を明らかにし、理念を実現するためのビジネスモデルを構想し、ビジネスモデルを実現するための事業計画を中長期的な視点で作成する。

次に事業計画達成のための具体的な戦略を組織構成員に明らかにする。戦略は、具現力であるエンジニアリングに裏付けされた戦術で組み立てることが必要である。実行に当たっては、企業力である「ヒト、モノ、金」で裏付けされていなければならない。

###### 未来を向いて経営する

「経営は未来学」である。常に未来に向かって経営計画を立案し、社員と共に事業に取り組むことで計画の実現が可能となる。経営トップは、明確な経営目的である企業理念をもち、理念を実現するためのビジネスモデルを明らかにする。

次にビジネスモデルを実現するための事業計画を策定し、その事業計画は、3年とか5年とかの中期的、長期的な時間軸を意識した経営計画を作成する。作成した計画を実行するにあたり、取り組むべき戦略を社員と共有する。

###### 戦術、戦力で裏付けされた戦略

経営戦略は、強みの源泉であるエンジニアリングの存在を意識して具現力であるエンジニアリングに裏付けされた戦術が明確でなければならない。まさに戦術は企業力である「ヒト、モノ、金」という実現性のある調達可能な戦力が準備されて可能となる。経営学ではよく戦略重視といわれるが、戦略だけが一人歩きしても、それを実行するために必要な技術の存在を意識した、技術経営戦略でなければ実行することはできない。

##### （2）予習・復習の実施

アシスタント講師として、2期も引き続き小坂哲平（5期生）が就任した。小坂は講義に向けて「予習・復習」の時間を設け、受講生を指導した。予習と復習の時間では、教科書（西河技術経営学入門）の読み合わせはもちろん、宿題である次回講義の演習課題（ビジネスモデル、経営理念、SWOT分析、商品開発戦略、エンジニアリング・ブランド、

中長期目標など)について受講生と活発に議論した。予習においてブラッシュアップした演習課題を講義の中で講師にぶつけて知見を得ることで、大きな学びの機会とビジネスのヒントを得ることができている。

今回の取り組みは、財団が取り組む地方創生活動の具体的な実践である。小坂建設（小坂哲平代表取締役社長）は、本研修の協賛企業として企画提案に取組んだ一員でもあり、ともに、社長の小坂哲平はアシスタント講師として演習の司会も担当した。

2021年10月3日（次期）を修了式として、取り組みを終える。受講生の技術経営に関する実践的な知識レベルでは、代々木で行う『西河技術経営塾』と比較して、見劣りの無い成果を出すことができた。次年度に向け、講座構成を見直し、更に効率的な実践的な知識が身につくよう試行を重ねる。

8月7日（土）に最終審査を行った。研究報告書が6名から提出され、全員が修了した。修了者は、水出修（小坂建設取締役）、村上俊英（青龍山吉祥寺副住職）、前田昌克（オリエント取締役）、鳥山和浩（雪国アグリ課長）、六本木勇治（尾瀬パークホテル部長）、土谷祐樹（ヒロ工業代表取締役）の6名である。

### 3. 2 敬愛大学（千葉市）での寄付講座（4期目）

敬愛大学（三幣利夫学長）における『経営シミュレーション－西河技術経営学入門－』と題する寄付講座は、4期目になる。敬愛大学経済学部経営学科の学生に、日本のモノづくり企業にとって重要な「技術経営」を教える。経営学が教えられて技術経営学が学部で教えられないはずはないとの疑問からの取り組みである。学生に経営を教えることは難しいが、分かりやすく経営を説明する研究につながっている。

2021年4月から7月まで、敬愛大学経済学部経営学科にて『経営シミュレーション（西河技術経営学入門）』と題する寄付講座を取り組んだ。4期目は国際学部の『入門経済学』の講義が相乗りする形で火曜日の3限目に対面形式で行った。国際学部46名、経済学部26名で合計72名の学生が試験を受けた。国際学部は必修である。全員が合格した。

敬愛大学経済学部経営学科での寄付講座の概要を以下に示す。

- (1) 設置年度 令和3年度（2021年）3月
- (2) 講座担当責任 アーネスト育成財団 専務理事 小平 和一郎
- (3) 寄付者 一般財団法人アーネスト育成財団
- (4) 寄付金 百万円（年間）
- (5) 開講科目 経営シミュレーション（西河技術経営学入門）
- (6) 講座構成 『西河「技術経営学」入門』の章単位で講座を進める。
- (7) 期待する成果 日本企業にとって重要な「技術経営」という新しい概念の学習で、グローバルな市場でも通用する競争力の強化策を学べる。
- (8) 財団の狙い 「西河技術経営学」の再評価と学術研究の機会を得る。受講生に技術経営の「技術」をいかに分かりやすく伝えるかの実践と教育実習の機会を得る。



## 4. 技術経営人財育成セミナー

今期は、コロナ感染が拡大し、度重なる緊急事態宣言が発令されたこともあり、開催を見合せた。

## 5. 調査研究

「技術経営学」研究会

アーネスト育成財団は、設立以来、経営人財の育成に西河技術経営塾を開催し取り組んできた。前期に発行した『西河技術経営学入門』は、その塾での成果を整理したものである。この本に従って少しずつ発展させながら、開発工学会（佐藤一弘会長）の「技術経営学」研究会（主査：小平専務理事）を協賛支援した。

## 6. 広報活動

### （1）ホームページの運用

ドメイン名”eufd.org”を取得し、ホームページを運用している。ホームページを月2回以上更新してきた。

表1 ホームページアクセス数集計（2020年10月01日～2021年9月30日）

No	ページ	合計	日本以外のアクセス国と回数
1	概要	1,741	米：107、中：9、英：3、伯：1、伊：1
2	西河技術経営塾	1,647	米：16、中：3、英：2
3	セミナー	3,385	米：146、中：99、英：10、韓：9、台：7、豪：1、独：1、伊：1
4	研究会	668	米：26、中：4、英：3、加：1、西：1
5	アクセス	138	米：2
	計	7,579	

（注1）伊：イタリア 伯：ブラジル 豪：オーストラリア 加：カナダ 西：スペイン

（注2）ホームページ（<http://www.eufd.org>）は、HOME、概要、西河経営塾、セミナー、研究会、アクセスで構成されている。

### （2）活動報告書（印刷物）の発行

活動報告「誠実を伝える情報紙 Earnest」を本年度は、4回発行した。豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目指す当財団の活動を広報することができた。具体的には、人財育成と活用に関する研究委員会の活動報告、西河技術経営塾の取り組み

報告、セミナー概要の報告などを行って、情報紙としての役割を果たしてきた。  
以下、各号の概要を報告する。

- ・ Vol.09 No.1(S032) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2020.10.20)  
実践に役立つ西河技術経営学（西河技術経営塾（8期生））  
経営を学び地方創生（西河技術経営塾入門講座）  
変革期をリードする技術経営人財の育成（第9期評議員会）
  
- ・ Vol.09 No.2(S033) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2021.01.20)  
公益財団を目指し、技術経営学の普及啓発（第9期 財団評議員会 事業計画）  
中小記号のDX戦略を研究する（西河技術経営学沼田塾での講義）  
文理融合、実理融合を実践する（西河技術経営学入門（3期）講座）
  
- ・ Vol.09 No.3(S034) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2021.04.20)  
技術経営人財を養成し、地方の企業を元気にする（第2期西河技術経営塾（沼田塾）  
モノづくり日本のための学問化（開発工学会「技術経営学」研究会（第1回））  
技術経営学を入門経営学として学ぶ（西河技術経営学入門（第4期）講座）
  
- ・ Vol.09 No.4(S035) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2021.07.31)  
未来は見えないから創りあげるもの（西河技術経営塾 実践スクール（8期生））  
中長期計画を立案することで次期経営者の育成（第2期西河技術経営入門講座（沼田塾））  
NEW 技術経営学の整理（「技術経営学」研究会（第2回））

### **（３）賀詞交歓会（令和３年）**

令和３年開催の賀詞交歓会は、コロナ感染が懸念されるため中止とした。

### **（４）広告宣伝**

芝浦工業大学校友会の賛助広告や日本開発工学会「開発工学」に広告を掲載した。

## 7. 役員構成と評議員会、理事会

### 7. 1 役員

- (1) 理事長 西河 洋一 (株)アーネストワン 代表取締役会長)
- (2) 専務理事 小平和一朗 (株)イー・ブランド 21 代表取締役)
- (3) 理事 浅野 昌宏 (一般社団法人アフリカ協会 副理事長)  
山中 隆敏 ((株)メディカルパーフェクト代表取締役社長)
- (4) 監事 廣田 令子 (税理士)
- (5) 顧問 吉久保誠一 (元 T O T O (株)専務取締役)、平強 (Tazan International CEO)、  
大橋克巳 (株)クラレ社友)、柴田 智宏 (J X 金属 (株) 社友)  
杉本 晴重 (元 (株) 沖データ代表取締役社長)

### 7. 2 評議員

- 吉久保 信一 (弁護士)
- 前田 光幸 (エネルギー&イノベーション研究所代表)
- 志手 一哉 (芝浦工業大学 教授)
- 渋谷 加津美 ((株) タムラ製作所)
- 小坂 哲平 (小坂建設 (株) 代表取締役)

### 7. 3 評議員会の開催

第9回定時評議員会を2020年12月09日(水)、フォーレストテラス明治神宮内「椎」の間にて行った。

- 第1号議案 第8期事業報告の承認
- 第2号議案 第8期決算報告書の承認
- 第3号議案 評議員の選任
- 第4号議案 理事の選任
- 第5号議案 第9期事業計画
- 第6号議案 第9期収支予算書
- 第7号議案 評議員、理事及び監事の報酬の額
- 第8号議案 議事録署名人の選任
- 理事会報告 理事長、顧問の選任

### 7. 4 理事会の開催

以下の理事会を開催した。

#### (1) 第73回理事会 (2020年10月) 2020年10月14日

- 第1号議案 2020年9月度決算報告
- 第2号議案 「西河技術経営学沼田塾 (代表 小坂哲平) の設立の承認と連携

- 第3号議案 「西河技術経営塾入門講座（沼田）」の2期生募集（3月末～7月上旬）  
第4号議案 評議員会の開催と第8期事業報告、第9期事業計画、役員人事

**（2）第75回理事会（2020年11月） 2020年11月11日**

- 第1号議案 評議員会の議案審議  
第2号議案 第8期の貸借対象対応表の「基金の変更」について

**（3）第76回理事会（2020年12月） 2020年12月09日**

- 第1号議案 理事長および専務理事の選任  
第2号議案 顧問の報酬の額

**（4）第77回理事会（電子決済） 2021年03月10日**

- 第1号議案 日本開発工学会「技術経営学」研究会の協賛  
第2号議案 敬愛大学（西河技術経営学入門）4期の講義

**（5）第78回理事会（2021年04月） 2021年04月14日**

- 第1号議案 2021年3月度決算報告  
第2号議案 （西河技術経営塾入門講座（沼田）の2期生募集結果報告

**（6）第79回理事会（電子決済） 2021年07月14日**

- 第1号議案 実践経営スクール9期生の講座構成と講師体制の見直し

## 8. 外部団体との連携

下記の団体との連携に取り組む

- （1）敬愛大学（三幣利夫理事長）で寄付講座第4期（百万円寄付）に取り組む。
- （2）一般社団法人日本開発工学会（佐藤一弘会長）法人会員。研究会活動に協賛企業となり協賛金を（??万円）寄付、事務所の提供、活動支援など。
- （3）芝浦工業大学 MOT 同窓会支部（西河洋一支部長） 活動支援など。
- （4）一般社団法人アフリカ協会（松浦晃一郎会長） 法人会員。当財団の浅野昌宏が副理事長（理事長代行）に就任している。アフリカ支援などに取り組む。
- （5）西河技術経営学沼田塾（代表小坂哲平） 財団が主催する西河技術経営塾入門講座（沼田塾2期）の運営を支援した。沼田塾会員の事業所や工場を見学し、意見交換を行った。入門講座の最終審査会に沼田塾会員が参加し、受講生と意見交換を行った。

以上